

瓦谷山だより



vol.4

発行日 2007年7月吉日
 発行人 (宗) 真光寺 岡本 和幸
 印刷 現代社
 編集 (宗) 真光寺 山崎・張

問い合わせ先
 (宗) 真光寺
 TEL 0438-75-7414

ご挨拶

諸行無常という言葉を待つまでもなく、飛ぶように月日が過ぎていきます。伽藍の建設は順調に進み、観音堂と、方丈、庫裡が建ち上がり、これから庫院（客殿）、仏殿へと進みます。来年一月にはすべての伽藍が竣工する予定です。

この建設は秋田の宮大工さんの伝統技術を使い、丸柱を多用した本格的な寺院建築となっています。本堂を建設しないで諸堂を建設する発想も、また集成材を使った寺院建築ということも日本初の試みかと思いません。完成が楽しみです。

一方樹木葬墓地、縁の会会員募集はいまだに進んでいません。誰もが納得してご利用いただけるように、じっくりと形を作っています。ようやく総墓型といわれる「桜の苑」が出来上がり、秋には本格的にご案内できるかと考えています。縁の会の毎月のイベントと、ご供養も十月より始める予定です。さらに努力を続けていきたいと思います。

里山再生活動は、現在七反五畝の田んぼを耕作し、さらに水芭蕉のある谷の整備に挑戦しつつあります。全体が整備されることで、連鎖的で劇的な環境の改善がはかれるものと期待しています。

すでにドジョウやホタルが増えてきましたし、鴨やカワセミ、サシバが目の前を飛んでいくといった光景があたり前に見られるようになってきました。これは後世に残すべき素晴らしい財産です。地域の宝とするにはまだまだやるべきことがたくさんあります。少しずつ地道に進めていきます。

去る六月八日、私の師匠であります、四谷、東長寺住職が遷化致しました。これに伴い私が東長寺住職を兼務することになりました。真光寺を留守にすることが多くなり、何かとご不便をおかけすることと思えます。何卒ご理解ご協力いただきまますようお願い致します。

幸い新たに真光寺のスタッフに、張さんという女性に加わっていただき、これまでの家内、山崎、上田と合わせ職員四名の体制で運営していくこととなりました。東長寺には五名の僧侶と二十名の職員がおり、両寺ともに力を合わせて護持していく所存です。

無常の風の中で右往左往しながら生きていくのが人の姿です。しかし出来る限り風に負けないように人と人が手を取り合い、スクラムを組んで未来を夢見ながら生きていきたいものです。真光寺という寺の歩みはとつびなように思われるかもしれませんが、理想的な姿をイメージしながら少しずつ進んできましたし、これからもそうありたいと考えています。

合掌

住職 岡本 和幸



開創四百五十年記念事業

◆新伽藍建立工事のお知らせ◆

真光寺開創四百五十年記念事業の一つとして始まった整備工事も、平成十八年七月に土木工事が完了し、休む間もなく新伽藍建設工事へと引き継がれました。

先ずは平成十八年九月十八日に地鎮祭が執り行われ、米・塩・酒で土地を清め、参列者全員で工事の安全と無事を祈りました。



■鍬入れの儀
岡本和幸住職による鍬入れの儀の様子。



■仏式による地鎮祭
新伽藍建設予定地にて安全を祈願しました。
写真中央は導師を務められた岡本和幸住職、奥は故東長寺住職瀧澤和夫老師。

ご参集頂いたのは、壇信徒総代高吉氏をはじめ、役員、建設委員の方々、また、四谷の東長寺からは故瀧澤和夫老師ならびに寺務長の安川氏、また、本工事に携わる設計・工事関係者約三十名の方々です。
皆様には今暫くのご不自由をおかけ致しますが、ご理解ご協力の程お願い致します。

新伽藍は、山門、仏殿、庫院（客殿）、方丈、観音堂、庫裡から成り、それぞれ役割を持っています。

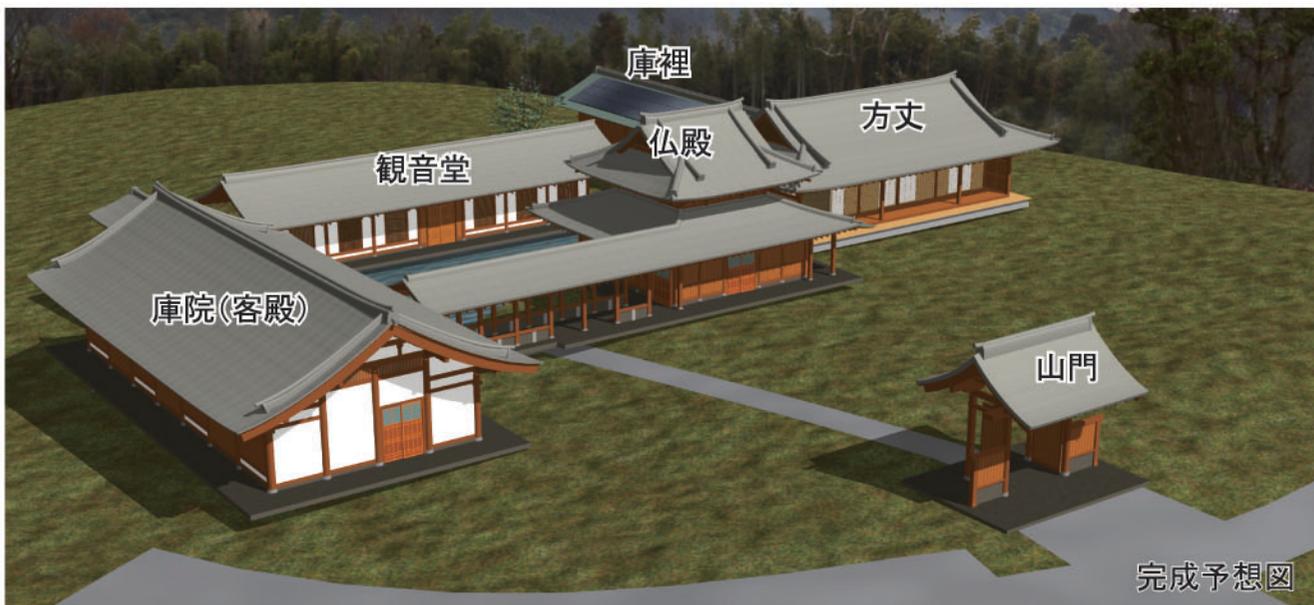
山門・真光寺の新しい伽藍空間へ誘います。

仏殿・葬儀や法要、坐禅などを執り行うお堂で、寺院の中心的な建物です。

庫院・皆さんの集会場で、法事の後席をおこなうことが出来ます。

方丈・畳敷きの建物で、法事の控え室として使用することが出来ます。

観音堂・縁の会会員の位牌堂です。



完成予想図



■基礎工事

H19.2の作業風景。観音堂・庫院が完成し、方丈・庫裡のコンクリートを打つための型枠工事中。

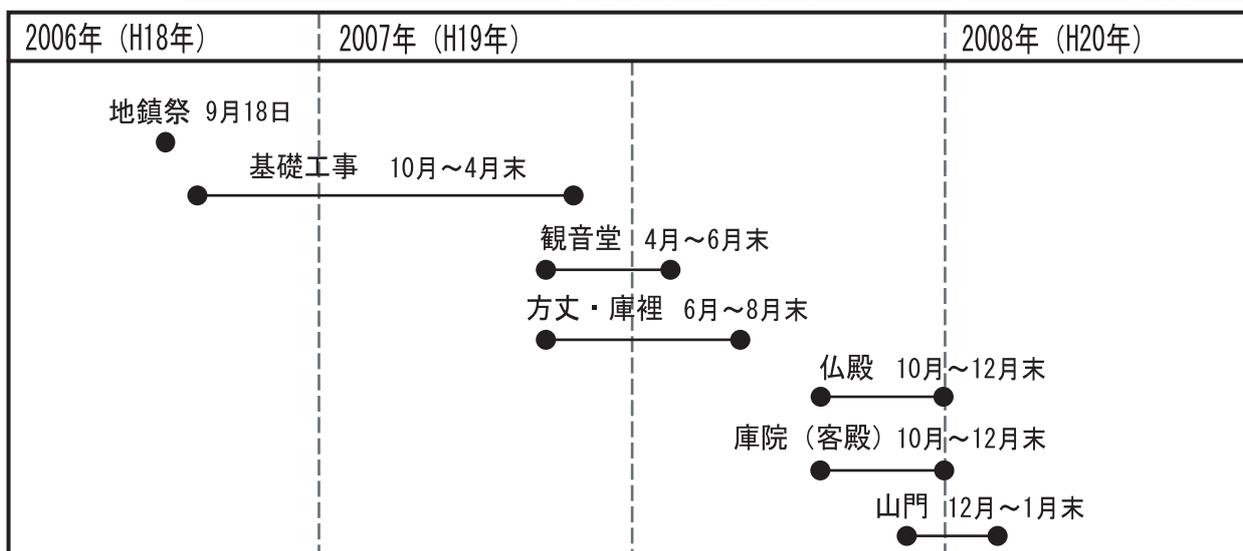


■観音堂の建方

初めて扱う集成材。接着剤で鉋の刃が直ぐに欠けてしまうなど苦労されている様子でした。

■庫裡・方丈の建方

観音堂の瓦が敷き終わると庫裡・方丈の建方へと続きます。



◆里山葬墓苑◆

里山葬墓苑が完成して一年が経ちました。荒廃した山の姿から一変し、日当たりの良くなった地面にはタチツボスミレが春の到来を告げ、五月の頃にはキジのつがい住人となりました。また六月に入りネジバナの花の蜜を集めに蜂も来ています。

植物の多様性が動昆虫類の多様性を生み、本来の姿である里山へとその姿を取り戻しつつあります。

- (右上) 里山葬墓苑
- (左上) タチツボスミレ
- (左下) キジのつがい
- (下中) アジサイとヤブカンゾウ
- (下右) ネジバナと蜂



◇森の苑◇

縁の会会員は、六月現在で十区画、十六名となっています。本格的なお知らせをしていない中、これだけの方に会員になって頂いて感謝すると共に、私たちの思いに共鳴して頂き、大変勇気づけられています。

* * *

今年の春先に桜の木を中心に約百二十本植えました。里山葬へと登る通路脇など、境内地全体にも配植しました。来年の開花時期が今から待ち遠しいです。

■桜

(右) この春に咲かせた墓園内の桜 (写真は染井吉野)

(下) 参道沿いに植えた桜 (主に染井吉野) 来年が楽しみ。



◇桜の苑◇

六月に石組工事をおこないました。一年以上前から境内地に置いてあった石材ですのでご覧になった方も多いたと思います。今回据えた主な三石の重量は、一番大きいもので十t、次いで六・五t、五tありました。巨木もそうですが、巨石もその存在だけで見る者を神秘的な面持ちにさせ、自然が生み出す力の前には人の力など無力だと教えてくれます。

石組工事が終わり、これから大勢の方の安寧を臨む場にふさわしい空間になりました。もう少し工事は残りますが、秋頃には正式にお知らせできるように進めております。



■石組工事

一番大きい10tの石を動かしています。吊り上げるレッカーも25t級の車輛。



■桜の苑

石組工事が終わった「桜の苑」。この後、碑・舗装工事と続いています。

里山再生活動

◇四年目のお米作り◇

田んぼを開いてから四年目に突入しました。今年は一谷津増え現在二つの谷津（計七反五畝）でお米を作っています。

今年には檀家さんに苗の種まきから教えてもらい、苗を育てるところから始めてみました。分からない事はお米作りの先輩である檀家さん達に教えてもらいます。いろいろな方の協力を得ながら真光寺のお米作りは段々と本格化(?)しつつあります。

*一反＝三百坪＝99.7平方メートル



■4年目の谷津田

風景もだいぶ落ち着いてきました。

今年もイベントに参加した方々と共に、三月・開墾、四月・黒塗りを、五月・田植え、六月・草取りを行いました。普段都市で働く人や学生が慣れない作業で疲れながらも「楽しかった」と言葉を残してくれます。

田んぼにいるたくさんの生き物に一喜一憂し、裸足で入る田んぼの水の温度や泥の感触、太陽の熱さや吹き抜ける風、呼びかけ合うかのような鳥のさえずり、、、体全部で自然を感じ、一心に作業をするということが充実感に繋がっている様に思われます。

都市での普段の生活では置き去りにされてしまっている何かに、ふっと立ち返れる場所でありたいと願います。



■黒塗り

田んぼの水漏れを防ぐために泥を畦に塗りつけていきます



■田植えの様子

田植機の体験、真っ直ぐ植えるのも難しい、、、



■タコノアシ

絶滅危惧種
赤色が鮮やかです



■カワニナ

ホタルの餌となります



■トウキョウサンショウウオの卵塊 (3月撮影)



■田植えの様子

左は今年から始めた谷津田。右は高吉さん（通称、^{かみ}上のおじさん）の谷津田

◇田んぼの変化◇

畦や梁の草を（笹も）刈ることによって日当たり風通しが良くなり、絞り水も増えます。田んぼでお米作りと平行してそんな作業を面積を広げながら繰り返し三年が経ちました。横井戸を発見しそれに続く水路をつくり田んぼの水の量も安定してきています。笹一色だった梁にスマレが咲くようになつたり、日当たりの良い水路にカワニナ（ホタルの餌）が増え、開墾当時少なかったホタルがたくさん見られるようになりました。ホタルのみならずいろんな虫や植物が広い範囲に見られるようになってきたと感じています。

行事予定

〔壇信徒〕

● 大門大施食会法要 八月九日(水) 午後二時より

説教師 西田正法老師

● 秋季彼岸会法要 九月二四日(月) 午後二時より

落語を予定

● 寺掃除 八月五日(日) 担当地区 台・新田・表場下

● 婦人会(こ詠歌練習日(どなたでも飛び込みで参加できます))

七月二四日(火)

八月 七日(火)

九月一日(火)、二五日(火)

〔縁の会会員〕

● 七日法要(十月より執りおこないます)

十月七日(日)

次第

午前一〇時三〇分 当山集合・当日の説明

一一時 授戒式・月例追善供養法要

一二時 季節の行事「**収穫祭**」(かまどでお米炊き、餅つき、山いも料理 他)

午後二時 解散(希望者は里山の散策ができます)

※電車での参加の方には送迎を致します(JR内房線姉ヶ崎駅改札口 午前一〇時集合)



〔里山再生活動〕

「稲刈り」

日時 九月一五日(土)・一六日(日)

集合場所・時間 真光寺・一〇時

※電車での参加の方には送迎を致します(JR内房線 姉ヶ崎駅改札口 午前九時三〇分集合)

費用 一泊二日 六千円(保険代・食事代含む)

特典 参加回数当たり二キログラムの新米を差し上げます

服装 動きやすく、汚れても良い服装

申込み方法 satoyama-info@earth-work.info

又は

又は

FAX 0438-75-7630 までお申込み下さい。

尚、参加申込みは九月十日(月) 〆切とさせていただきます

—お知らせ—

※昨年は20俵(約1200キログラム)のお米が収穫でき、今年はおおよそ40俵の収穫が期待できます。昨年同様、除草、殺虫剤を使用せずに体に優しい米作りを目指しています。お米の販売予約も受け付けていますので、真光寺までお問い合わせ下さい。多くの方に食べて頂ければ嬉しいです。

(収益金は里山保全活動費に充当します。)

※田んぼ管理者・上田さんが日々の田んぼの手入れや様子を綴っているブログがあります。是非アクセスしてみてください。

【瓦谷山たより】

<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>